

名大の時間

603

誰かにとって支えになれる存在に

私は、小学生の頃からずっと看護師になることを夢見てき

ました。その夢を叶えるため名寄市立大学に入学してから3年8か月が経ち、残りの学生生活は3か月程となりました。名寄で過ごした日々を振り返るとさまざまな思い出がありますが、とくに印象に残っているのは、大変だった時期に周りの人たちが支えてくれたことです。

3年生の頃は課題や実習で忙しい毎日が続き、不安や焦りで心がいっぱいになることもありました。そのような中で、友人や先生方がそばにいてくれたことが大きな支えとなりました。友人たちは、私が落ち込んでいるときに話を聞いてくれたり、こまめに連絡をくれたりと、いつも寄り添ってくれました。

また、先生方も、学内ですれ違ったときや授業後などに気にかけて声をかけてくださったり、お菓子や飲み物を差し入れてくださったりしたこともありました。こうした気遣いや何気ない言葉が、その時の私には大きな力となり、その一つひとつに本当に助けられていました。名寄での学生生活を通して、人生で出会えて良かったと心から思える人たちにも巡り会うことができました。

4年生になってからは、8週間の看護師実習、約2か月間の保健師実習がありました。もちろん大変なこともありましたが、不思議と毎日が楽しく、終わってしまうのが寂しいと思うほど充実した期間でした。3年生のときに周りに支えてもらった経験があったからこそ、前向きな気持ちで実習に臨むことができたのだと思います。

大学生生活を通して友人や先生方をはじめ、地域の皆様など多くの人に支えられたように、今度は私が控えています。



誰かを支えられる看護師になりたいと強く思うようになりました。看護学科4年

良い結果につながるよう一生懸命張りつ、残りの学生生活も大切に過ごしていきたいと思います。そして、看護師になったあとも、誰か

岡崎結那